

♪私はずっと

はとバスのバスガール 歴代観光バスガイド 座談会

あのころの体験が私の宝物

前回のインタビューが好評だったことに勇気付けられ、歴代のガイドさん11名に集合していただき、輝いていたあの時代のこと、その後の人生の生き方を教えられた、はとバスでの経験など、思う存分語っていただきました。先ずは皆さんのプロフィールから紹介しますと、入社は昭和32年(1957年)から昭和54年(1979年)という、まさに日本の戦後復興から日本の最も元気だった80年代目前までに入社した方々です。

- ★車両保有台数100両と初めて3桁に
- 昭和33年入社
- 星野洋子さん(小野田)
- ★創業10周年
- ★東京タワー完成
- 昭和34年入社
- 八幡幾由江さん(川村)
- 田辺清江さん(杉田)
- ★皇太子ご成婚祝賀輸送バス運行、はとバス二重橋を渡る
- 昭和38年入社
- 中野郁子(佐々木)
- ★新日本観光から、はとバスへ社名変更
- ★ケネディ大統領暗殺
- ★翌年の東京オリンピックに向け車両数152両(6年前の1.5倍に)
- 昭和43年入社
- ★前年の経済白書にも

はや戦後ではない」と記され、日本の復興進む



▲C班の皆さん

齊藤時子さん(上出)
★営業部・東京営業所、丸の内南口へ移転

★三億円強奪事件

★翌年44年に車庫品川から平和島へ移転

昭和54年入社
岩下アヤノさん(伊東)

工藤孝子さん(八重樫)

宮嶋弘美さん(山中)

牧 美保子さん(中井)

森内喜美子さん(鈴木)

★創業30周年 この年以降の新車はレモンイエローに

★銀座キャピタルホテル新館開業

こうした時代背景のもとで入社した皆さんですが、お話を進めやすくする為、二つのグループに分けさせて戴きます。

Aグループ(チーム品川)

32年入社の藤原さんから43年入社の齊藤さん迄。こちらの皆さんは品川車庫時代の入社です。

Bグループ(チーム平和島)

54年入社の5名です。このメンバーは鳩友会最大の結束力を誇る同期入社メンバーです。都内からではなく、その当時修学旅行で日光方面の仕事が多かったため、日光方面から研修を始めた、日光班(C班)です。私(門村)個人的にも会社に最初に配属されたのが人事課で、自ら採用し、次の異動先ガイド課で一緒に仕事をした、思い出深いメンバーです。まさか70歳になり、一緒にあの頃を語る日が来るとは!!

はとバス人生は本当に楽しいですね!!

さあ舞台は整いました、それではあの時代に発車オーライ。

Aグループ(チーム品川)

皆さんのインタビューをまとめました。



▲チーム品川 向って右から 藤原さん、星野さん、斎藤さん、八幡さん、中野さん、田辺さん

先ずは入社の動機を伺いました。現在のガイドさんと同じく、人と接する仕事が好き旅が好き、お客さまに感動を伝えたい、歌が好き、とガイドを目指す彼女らに途切れることなく続く、ホスピタリティとお客さまとの感動の共有がしたいという気持ち、ガイドを目指す原点といえるでしょう。しかし動機は同じでも時代背景を伺うとやはり見方が変わります。昭和30年代前半入社の方は原則東京在住で、しかも親元から通うことが条件だったようです。これはガイド寮が無かったことが大きな要因と思われませんが(清

美寮はS39年完成)、ガイド職が結婚するまでの花嫁修業と考えられていた事もあったと思われ。昭和30年代後半以降になると、東京オリンピックや大阪万博のため大量採用が実施され段々と、変化も起きて来たようです。入社試験の第一次試験が、歌唱力審査だったことも興味深いお話でした。ビデオもカラオケもない時代、ガイドさんのアカペラは現在と比較できない位大きな要素だったと思います。しかし試験で選んだ歌が明治二代女とか、ぼちゃぼちゃ小唄(どんな歌だ?五月みどりの歌だそうですね)と伺い、昭和だなぁと思わずうなりました。その時代ガイドを職業として目指すことは大変だったようです。まして地方在住の方は、会社に入社願書を提出しようにもうまく連絡がとれず、諦めかけていたころ夏休み中のキャンプ場に、追加採用試験実施の連絡が来て、夜行列車で受験のため上京したエピソードを聞き驚きました。入社してからも状